



ちぐさ咲く

みち

ラベンダー



こっ き しん

# 克己心 … 自分に打ち勝ち、成長を促す心

校長 花生 典幸

『他人の記録を塗り替えるのは、7割、8割の力でも可能ですが、  
自分の記録を塗り替えるには、10割以上の力が必要です』

上の言葉は、元大リーガーのイチロー選手の言葉です。ニューヨークヤンキース時代、インタビューの中で話されたものだそうです。

さまざまな記録を塗り替え、新しい記録を打ち立ててきたパイオニアであるイチロー選手ですが、**〈他人に勝つことよりも、もっと難しい(=価値がある)のは、自分自身に勝つこと〉**といっているのが、とても興味深く感じます。現状に満足せず、常に今ある以上の高みをめざして努力を惜しまなかった、イチロー選手ならではの覚悟と説得力が伝わってきます。

人間が成長するために、必要なことは何でしょう？

ある本には、人の成長のきっかけになるものは、**〈背伸び〉**にあると書かれていました。

**背伸びをするというのは、もともとできることに加え、一歩踏み出して、少し新しいことに挑戦したり、新たな工夫を試みたりする**ということです。当初は、多少のリスクや無理を抱えながらおずおずとやっていたことでも、気づきや学びを通じて

いつの間にか自然とできるようになっている、そんな経験はだれにでもあるのではないのでしょうか。この繰り返しが、やがて成長につながっていくというのです。

また、人間の成長には、程度の差こそあれ、必ず何らかの困難（負荷）が伴います。今の自分を超えて、その先に行こうとするわけですから、負荷がかかるのは当然です。

成長には、壁（困難）にぶつかることも想定内であり、それを乗り越えることが、すなわち成長を促す。そして、それをやりきるのは、ほかならぬ自分自身の力でしかない。そのことを、わたしたち大人は、経験知としてだれもが理解しています。**成長するということは、困難に打ち勝つことであり、それは〈自分に勝つこと〉でもあるのです。**

自分自身の中にある「失敗したらどうしよう」「めんどくさい」「やりたくない」「苦勞したくない」「恥ずかしい」「いやだ」といった“心の弱さ”を克服し、前を向いてこつこつと努力し続ける …… わたしたち学校教育のスタンスとしても、あるいは大人（保護者・先生）という視点に立ってみても、他力本願をあてにせず、**“必ず子どもたちには将来困難な場面が訪れる”という前提で、困難に打ち勝つ強さ（克己心／こっきしん）を一人一人に育んでいきながら、温かく支えていく**、そういう距離感を保っていききたいものだと思います。

